

4-3

入居者の支援と向精神薬の服用

その人らしさを取りもどすために

意識化

その人らしさ

特別養護老人ホーム 葛飾やすらぎの郷

介護福祉士 木下知則

中山美千代・森田敏子・長谷川浩司・福田久美子

東京都葛飾区新宿3-4-10

武田幸子・竹之内望・御代田祐介・土屋吉正

TEL 03-5648-8250

FAX 03-5648-8251

今回の発表の施設
またはサービスの
概要 10p

社会福祉法人すこやか福祉会が母体である葛飾安らぎの郷は平成13年4月に96床の特養、デイサービスを開設された福祉施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 内服薬の検討
- 利用者の心身の変化の把握、情報の共有
- 生活支援の提供内容の見直し

〈具体的な取り組み〉

- 2004年4月から月に2回精神科医の診察が開始
- 医師への情報提供の書類作成
- 内服の変更に伴う心身の状況・言動の変化の観察、記録
- 変化に伴う生活の支援内容の見直し、ケアの提供方法を検討する
- 統一した手順で対応する。(手順作成)
- 新規入所は入所のできるだけ早い時期に医師に生活歴、病歴、内服薬等の情報を提供する。
- 認知症、高齢者の性について精神科の医師から講義、学習会の実施
- 家族への説明し、協力を得る
- 看護・介護の情報の伝達、共有。医師に生活の状況を報告する。常時相談できる連絡体制を取っている。
- 2004年4月1日在所の78名、2004年4月以降の新規入所38名です。

〈活動の成果と評価〉

- 2004年4月の在所79名のうち医師介入は20名介入、4月以降の新規入所34名中14名介入。内服薬の変更20名、中止13名、減量11名、増量9名、そのまま1名
- 内服薬の調整で表情が出てきて会話ができるようになった。
- 夜間譫妄の人が生活のリズムを取り戻せた。
- 全介助で床上生活していた人が車椅子自乗しフロアを自由に動いている。
- 内服薬を中止し幻覚の出現や、薬のコントロールにより抑制が取れて徘徊がひどくなる場合もあった。職員のケアの大変さがカンファレンスであがってきたりもした。
- 半面活動が活発になるとリスクも高くなるが薬で抑えるより笑顔で動きがあるほうがその人らしいという職員の視点もでてきた。

〈今後の課題〉

- 医師の介入されない入居者も大半いる。
- 開所当時から向精神薬を服用している人が、日常生活の中で問題にならなかったり、薬にこだわりがあり変更、中止が困難な入居者については後回しになっている。
- 新入居は全員、既存の入居者も全員医師につなげる。
- 内服の調整内容、心身の変化、行動が経時的にわかるよう記録の工夫、他職種の連携システムが必要。
- 内服薬の増減の周知徹底